ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」(1)

人間以外の動物にとって、生きることは食べることである。しかし、それを実現するには、いつ、どこで、何を、だれと、どうやって食べるか、という五つの課題を乗り越えねばならない。現代の科学技術と流通革命は、その多くを個人の自由になるように解決してきた。24時間営業のコンビニエンスストアや自動販売機。車や飛行機などの輸送手段や、インターネットを利用した通信手段。電子レンジやファストフードなどの調理や保存の技術。これらは①私たちが、いつでも、どこでも、どんなものでも、好きなように食べることを可能にした。

しかし、技術によっては変えられない課題もある。それは、だれと食べるかということだ。

ふだん単独生活をしているクマやカモシカのような動物には、この課題は必要ない。なわばりをつくって他者の侵入を防いだり、他者と出会わないようにして餌資源を確保したりすればいいからだ。しかし、群れをつくる動物は常に②この問題に直面する。とりわけ複雑な社会生活を営む人間にとって、いっしょに食べる相手は重要である。もちろん、移動手段の革新によって、遠くに住む知人や親族に会うことができるようになった。だが、だれと食卓を囲むかは、昔も今も個人の自由裁量によっては決められない。

古来、人間の食事には、栄養の補給以外にも他者との関係の維持や調整という機能が付与されてきた。いやむしろ、他者といい関係をつくるために食事の場や調度、食器、メニュー、調理法、服装からマナーにいたるまで、多様な技術が考案されてきたといっても過言ではない。どの文化でも社交の場として食事を機能させるために、莫大な時間と金を消費してきたのである。それは③効率化とはむしろ逆行する特徴をもっている。

（山極寿一『ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」』毎日新聞出版 による）

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「私たちが、いつでも、どこでも……可能にした」とあるが、これは何によってもたらされたか。本文中から十二字で探し、最初と最後の三字を答えなさい。

□□□〜□□□

(2) ——線②「この問題」とは、どのような問題か。解答欄に当てはまる言葉を、本文中から七字で探し、書きぬきなさい。

□□□□□□□という問題。

(3) ——線③「効率化とはむしろ逆行する」例として、適当なものを選びなさい。

ア　お客に食事をふるまう際には、美しい調度品や食器を使ってもてなす。
イ　輸送手段の発達によって、新鮮な食材がいつでも食べられるようになった。
ウ　家族同士でも生活のリズムが異なるので、各自が好きなときに食事をとる。

〔　　〕

(4) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア　いつ、どこで、何を食べるかといった課題は、技術によっては変えることができないものである。
イ　クマやカモシカのような動物でも、食事をいっしょにとる相手は常に問題となる。
ウ　移動手段の革新によって、だれと食卓を囲むかは個人の裁量で決められるようになった。
エ　人間の食事には、栄養を補給するほかに、他者との関係を維持・調整する働きがある。

〔　　〕